

## 「フォーク誘導タブレット」と「OCR<sup>※1</sup> 検品システム」導入により キリンビール工場でトラック構内滞留時間を約 10%削減へ

キリングroupロジスティクス株式会社（社長 山田 崇文）と、キリンビール株式会社（社長 堀口 英樹）は、「フォーク誘導タブレット」および「OCR 検品システム」をキリンビール工場で 2021 年より順次導入し、2022 年 1 月より計 8 工場<sup>※2</sup> で運用を開始しました。昨年の運用を踏まえ、トラックの構内滞留時間において年間で約 10%の削減を見込みます。

※1 Optical Character Recognition/Reader、光学的文字認識

※2 キリンビール仙台工場、取手工場、横浜工場、名古屋工場、滋賀工場、神戸工場、岡山工場、福岡工場

昨今の物流業界では、災害の発生時においても安定した商品供給が求められるとともに、2024 年 4 月に施行される働き方改革関連法を見据えたトラックドライバー不足への対応およびドライバーの労働環境を改善が急務となっています。

今回、「フォーク誘導タブレット」の導入によりトラックドライバーの積み込み時間を短縮し、「OCR 検品システム」の導入により、積み込み時にトラックドライバーの検品作業を省くことが可能になります。またこれら ICT の活用により誤出荷防止に向けたさらなる取り組みを推進します。

### ■ 概要とメリット

①「フォーク誘導タブレット」：構内で作業するフォークリフトに取り付けられた「フォーク誘導タブレット」では、トラックが配車されると同時に、トラックに積み込む製品の情報がタブレットに表示されます。今まではトラック到着後に紙の指示書を元に製品を積み込んでいましたが、タブレット内容をフォークマンが確認することで、トラックが到着する前に予め積み込む製品を荷揃えすることができ、トラックへの積み込み時間が短縮されます。



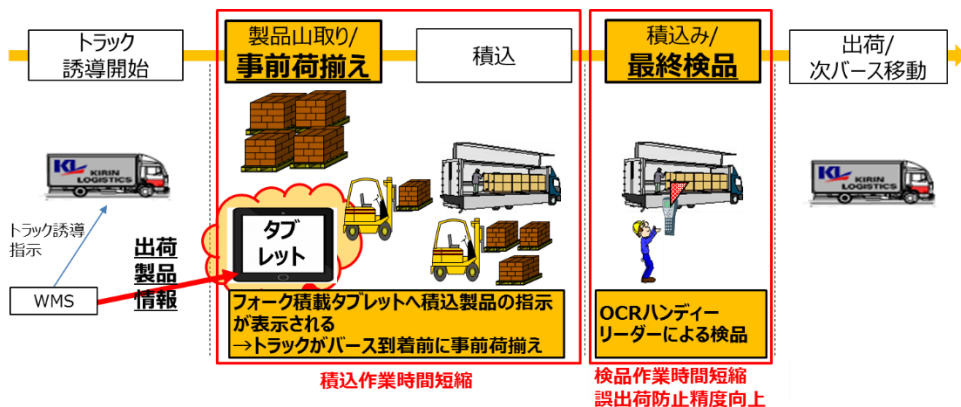
「フォーク誘導タブレット」



「OCR ハンディーターミナル」  
読み取りイメージ

②「OCR 検品システム」：今まではトラック到着後もトラックドライバーとフォークマン双方で読み合わせながら積み込む製品の検品を行っていましたが、本検品システムではトラック到着前にフォークマンのみが「OCR ハンディーターミナル」で製品情報を読み込み、検品を行います。これによりトラック到着前に検品を終了することができ、トラックドライバーとフォークマンの業務効率化につながります。また従来の目視確認ではなく「OCR ハンディーターミナル」で読み取ったデータを照合することで検品の精度が上がり、誤出荷防止にもつながります。

### ■ 導入イメージ



キリングroupロジスティクス株式会社は、キリングroupで培った「キリン品質」で、お客様に「安全」・「安心」・「信頼」と「質の高いサービス」を提供するとともに、国土交通省・経済産業省・農林水産省が推進する「ホワイト物流」推進運動を推進していくことで、持続可能な物流を実現していきます。

### 【本件お問い合わせ先】

キリングroupロジスティクス株式会社 本社物流管理部物流管理担当（担当：松井・標葉）  
東京都中野区中野 4-10-2 中野セントラルパークサウス Tel: 03-6837-7010